

外来語の発音・表記について

～[wei] のカタカナ表記と語末の長音～

平成24(2012)年9月28日(金), 放送センターで第1360回放送用語委員会が開催された。

今回は[wei]のつく外来語の発音・表記と語末の長音の有無について取り上げた。なお,[]内のアルファベットは英語での発音を,[]内のカタカナ表記は日本語としての発音を表す。

議題1 [wei]の発音とカタカナ表記

「ウエー」「ウエイ」「ウェー」「ウェイ」のうち、どの発音・表記をとるかという問題である。現在の表記の原則は次のとおり。

- ・「ウエー」と書く。
- ・地名・人名は「ウエー」と書く。ただし、「Broadway」¹⁾は、「ブロードウェイ」。
- ・そのほか、「weight」「waitress」「waiter」「weight lifting」は、スポーツおよびこれまでの慣用を考え、「ウエイ」。また「away」は、サッカーの慣用を考え、特例として「アウェー」と表記する。

『NHK日本語発音アクセント辞典』(40刷・2012)に掲載されている関連語は以下のとおり。「ウエー」「ウエイ」「ウェー」「ウェイ」それぞれの表記の語がある。

ウエー：ウエーデルン(Wedeln), ウエーブ(wave), コールドウエーブ(cold wave), ドライブウエー(driveway), ニューウエーブ(new wave), ハーフウエー(halfway), ハイウエー(highway), フェアウエー(fairway), マイクロウエーブ(microwave), ランプウエー(rampway), ロープウエー(ropeway)

ウエイ：ウエイター(waiter), ウェイト(体重・weight), ウェイトトレーニング(weight training), ウェイトリフティング(weight lifting), ウェイトレス(waitress)

ウェー：アウェー(away)²⁾, ウェーク(地名・Wake), ウェールズ(地名・Wales), ノルウェー(地

名・Norway), ミッドウエー(地名・Midway)

ウエイ：ブロードウェイ(地名・Broadway)

放送用語委員会事務局から,[wei]関連の語について「新しい表記案」を提案し,その提案をもとに議論した。

新しい表記案³⁾

「ウエー」と発音することが一般的である語は「ウエー」と書き,[ウェー]と発音することが一般的である語は「ウェー」と書くことを原則とする。なお,[wei]に関連する語については,用語班が行った「音声認識調査」⁴⁾の結果などから以下のような発音上の傾向が見られる。表記も発音の傾向におおむね従うことにする。

①[wei]が語頭にくる場合は[ウエー]([ue]と2拍で発音する)と発音されることが多く,表記もこれに従う。(アクセント核が[e]にあるもの,または平板型アクセントのものは「ウエー」)

〈例〉ウ/エ\ーブ, ウ/エ\ーティング

〈例外〉ウ/エ\イター, ウ/エ\イトレス

ウ/エイト→(体重), ウ/エイトレ\ーニング, ウ/エイトリ\フティング

*体重という意味の「weight」は例外として「ウエイ」とする。スポーツ競技,協会名として「ウエイトリフティング」という表記が使われているため。

②[wei]が語中にくる場合は[ウェー](1拍[ue]で発音する)と発音されることが多く,表記もこれに従う。

〈例〉ド/ライブウエ\ー, ハ/ーフウエ\ー, ハ/イウエ\ー, フェ/アウエ\ー, ラ/ンプウエ\ー, ロ/ープウエ\ー, コ/ールドウエ\ーブ, ニュー/ウエ\ーブ, マ/イクロウエ\ーブ

*ただし,「ウエイ」を原則とするのは時期尚早と判断した。

③地名・人名の場合は「ウエー」を基本とし,慣用に従って「ウエイ」を使う場合もある。

〈例〉ウエーク島, ウェールズ, ノルウェー, ミッ

ドウェー, ヘミングウェー

〈例外〉ブロードウェイ

④このほか、新しく流入し、新たにカタカナに書き表す必要が生じた語は、当面「ウェー」で表記することとし、変化してきた場合には別途検討する。

〈例〉ウェーバー(権利放棄・野球)

使われる場面が専門的な場面に限られる語は、慣用に従って書き表す。

〈例〉アウェー(サッカー), ウェーデルン(ドイツ語・古いスキー用語)

新しい表記案について

●「音声認識調査」では「highway」「waitress」「wave」「weight」について調査した。[wei]が語頭にくる「wave」と「weight」は「ウェ」よりも「ウエ」が多く、この点については、年代による差も見られない。一方、[wei]が語中にくる「highway」は「ウエ」よりも「ウェ」が多い結果になっている。年代による差は語頭にくる語よりはるかにあるが、「ウェ」か「ウエ」という点でいえば、各年代で「ウェ」が多い。

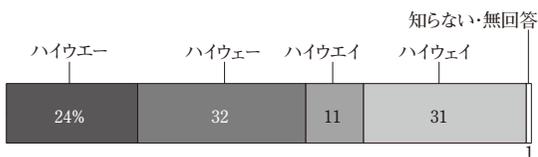
●「音声認識調査」の各語の結果をそれぞれ見ると、若い年代ほど「ウェ」「イ表記」(ウェイ)が多い(例:「highway」「waitress」は、20～39歳で、「ハイウェイ」「ウェイトレス」がいちばん多い)。新しい語については、若い年代の人たちから使い始めることを考え、「ウェ」を基本とした。しかし、「ウェ」+「イ表記」である「ウェイ」は、状況により出にくいこともあり使わないこととした。

〔資料〕「音声認識調査」

[wei] 関連の語では「highway」「waitress」「wave」「weight」4語について調査した。

(1) highway の調査結果

聞いたことのある発音

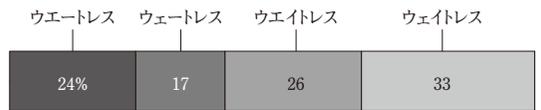


自分で発音する場合



(2) waitress の調査結果

聞いたことのある発音



自分で発音する場合



(3) wave の調査結果

聞いたことのある発音



自分で発音した場合



(4) weight の調査結果

聞いたことのある発音



自分で発音した場合



(議論)

荻野綱男委員：事務局案でいいだろう。Wayの部分は表記、音声ともに「ゆれ」ており、どう決めても難しい。原理原則を打ち出して、それに従ってすべて決めていくと、発音などに違和感が生じ

てしまう。現状を把握して、多数派に従うというほうが自然に受け取れる。今回の提案は、現状を調べたうえで、ルール化をはかっている。「現状」(=データ)を把握し、それをあまりかえずに一応ルールとして言えるようにもっていくのは比較的覚えやすく使いやすい。違和感も少なくすむだろう。こういう検討をしたうえで、個々に決める、という決め方が好ましいのではないかと思う。

清水義範委員：提案の原則で反対する理由もない。[wei]を含む語は、新しい感覚の語は「ウェイ」「ウェー」。古い感覚の語は「ウエー」という全体の傾向がある。ことばごとの実態をつかまえ、また、例外がある場合にはその例外を個別に見つけていくというやり方しかないのだろう。

井上史雄委員：ここで議論をしているのは表記の問題である。NHKでは「表音一致」を前提にしている。和語・漢語・外来語それぞれの表記と発音の関係について考えてみる。漢語は、表記は「えい」だが、発音は「エー」、表音不一致だ。外来語は「エー」と書いて「エー」と発音しており、一致している。和語は、「うれえる」「おねえさん」などがある。これは表音一致。しかし「うめいた」「はるめいて」「かせいだ」は、場合によって「エイ」「エー」という場合があるようだ。表記は定まっているが、発音は定まっているわけではないようだ。また、「辛い」ことを言う「カレー」という発音を「かれえ」と書く場合もあるし、「かれー」と書く場合もある。今回議題にあがっている[we:]にはさまざまな表記がある。外来語で使用頻度の低い語は、それほど多く表記を目にするわけでもない。NHKの表記が、かつて自分が目にしたものと違っていても問題にする人は少ないのではないか。同じ発音について2種類の表記をしてもあまりこだわらないという気がする。結論としては原案で賛成。ただし、「新しい表記案」①②で書かれていることは用心すべき。語頭と語中で本当に違うのか。こういうことを言うためにはもう少し調べる必要がある。研究所としてはこういう傾向があることを示してもいいだろうが、原則に書き込むとまどわされる人がいる。当然変化するわけだから、すぐにこの規則性は古くなる。細かい説明については省くほうがよい。

野村雅昭委員：提案に異論はないが、細かくは気になるところがある。[wei]のつく位置を「語

頭」「語中」としているが、これでいいかどうか。「語末」または「語中・語末」とするべきか、「語頭」と対応させて「語尾」とするべきか。検討したほうがよい。また例外的に扱う語についても気になる点がある。原則はできるだけおおづかみでわかりやすい太い原則を作り、それでもどうしてもやむを得ない場合は例外を作るというやり方である。「新しい表記案」の④には新しく入ってきた語の例として「waiver」があがっており、「権利放棄・野球」とある。ごく最近のこのことばの使い方であり、「ウエーバー方式」というプロ野球のドラフトのことばは1960年代から使われている。それと今の「権利放棄」という意味の「waiver」とはどういう関係にあるのだろうか。「ウエーバー」でもう定着しており、新しい言い方をしなくてもいいのではないかと思う。また、「away」も表記は「アウエー」でいいのではないかと思う。なぜ、このことばだけを取り立てて例外にしなければいけないのか。「wedeln」も「ウエーデルン」でいいのではないかと思う。そう考えると「weight」がどうなるのかという問題になる。これらはスポーツ用語として使われていて、そういう「ウエ」で表記されているからだということになる。放送・新聞社などは一体、何をもってそれが専門語であると判断するのだろうか。「アウエー」は中継などの場面でそう発音されることが多いから例外なのだろうか。競技の用語で定められているからなのだろうか。例外とされるものは認めるべきかどうか、ひっかかるところがある。外来語の表記は、和語と漢語と切り離して、独立しているのだと考えたくはない。外来語の表記も、和語と漢語とそろえられるところはできるだけそろえる。それでも例外は出てくる。発音との不一致は出てくる。それはしょうがないことなのではないか。例外としてあげる語はなお考慮が必要である。

天野祐吉委員：ルール化しにくいものをルール化するのは大変だ。当面これで、という案でいいだろう。個別の問題になるとひっかかるものがある。「highway」は「ハイウェイ」と言っているつもりでも「ハイウェー」と聞こえる。自分が言っているつもりと発音と、相手が受ける発音とが違う。だから文字で見せられると自分では「ハイウェイ」のほうが「highway」に感じられる。「ハイウェー」

と書かれているとイメージしにくくなる。この辺のずれが気になる。「ウェイ」にしてしまったほうがいいのかと思う。

井上由美子委員：提案に賛成である。慣用からも大きくはずれていないと思う。例にあがっていないものの中で、「道」という意味の「way」は単独で使われることがない。語中で使われることしかないが「ウエー」とするわけにいかない語なので、例外で「ウェー」の例にあげるといいように思う。余談だが、去年「Railways」という映画が公開された。原題はアルファベットだが、新聞などで見ると「レイルウェイズ」「レールウェーズ」「レイルウエイズ」「レールウエーズ」などの表記が見られた。「鉄道」という意味の外来語で使われる場面もあり、『NHK アクセント辞典』に立項してはどうだろうか。

議題 2 語末の長音符号の表示について

NHKおよび新聞各社では英語などの語末の「-er」「-or」「-ar」「-y」は、原則として長音で書き表すことにしている。日本人が発音した場合、のぼして発音することが自然であるためである。しかし、語末の長音を省いた表記を目にすることも多い。長音を省略せずに表記するという原則を再確認する。

(議論)

井上由美子委員：今は一般の人でもツイッターなどで、140字以内などの制約がある中で書こうとする場面がある。長音を書かずに意味が伝わるものに関しては省略したくなる。しかし、あまりそれを乱用しすぎると、発音とどんだんかけ離れていくことになるので、原則である表音一致を守るべきだと思う。

天野祐吉委員：提案のとおりでよいが、少し省略する方向のほうがこれからは本道になるのかなという気がする。「コメディー」「コミュニティー」だと間延びしてしまって別のもののような感じがする。「イ」は長音を含むと感覚的に思っている人が多いのではないか。そこに長音をつけられると違和感がある。400字詰め原稿用紙で書いてくれと言われると1字、2字が非常に重要になる。書いている側としては無駄な長音を使いたくないという気がする。

野村雅昭委員：NHKの原則は妥当なものと考えられる。表記ということで考えると、単語のおしま

に「イ」「ツ」「エ」がくるというのは、日本語としては落ち着かない。外来語の場合「ビュッフェ」くらいだろうか。和語や漢語ではあまりない。拍数と表記の一致はできるだけ守りたい。そこまで1字でも少ないということを中心すると、例えば「essay」はどうなるだろうか。「エッセー」か「エッセイ」というゆれの問題で取り上げられることが多いかもしれない。しかし、促音を書くのか書かないのかという問題もある。原音は促音がない「エセイ」のほうが近いが、促音を省くことはほとんどない。字数を減らすという便宜の問題だけでなく、1字でも少ないほうがかっこいい気はする。しかし、原則は、やほったくても長音をつけるということで守ったほうがいい。

井上史雄委員：原則について考えてみたい。小さいかなをどう扱うか。「ッ」は1拍の長さを持っているが、「ャ」「ュ」「ョ」は長さを変えない。「フェ」「ファ」も長さを変えない。「ティ」「ディ」についても「チ」「デ」と長さは変わらない。「コミュニティ」と書かれていれば「コミュニティ」と発音すべき。「ティー」と発音したければ、「ティー」と書くべき。最後の長音を省くのは、戦前に学術用語を定めたときに専門用語を扱う人たちによって決められた。英語で発音すると長さが十分ではないため、長音は必要ないという理由だった。それが学術用語として採用され、戦後も残り、当時の文部省が外来語の表記を定めるときに「ただし学術用語は別とする」と例外とした。学術用語で定めているのは表記だけで、発音は定めていない。その後、JIS規格が定まった⁵⁾。例えば「コンピューター／コンピュータ」はJISでも語末の長音を省いている。そのほかの語でもJISに従って長音が大幅に省かれている。マニュアルをとおして長音を省いた表記に接しているため、NHKの字幕でも省略したいという要望が出るのではないかと思う。しかし、JISも発音は定めていない。表記をどうするかという問題とは別に、発音は「コンピューター」で一般化していると考えられる。こうした発音は変えられないし、変えようもない。NHKでは表音一致という原則があり、発音どおりに、長音を省かずに書いたほうがよい。これを守らないと「イ」「エ」などをつけたときには長さを変えないという第1原則に反してしまう。文部科学省でも例外を認めていない外来語表記の第

1原則である。そこから考えても音引きは保つべきだと思う。

清水義範委員：以前「party」というタイトルの小説を書いたことがある。どちらの表記をとるべきか本当に困った。「パーティ」と書いてあって、「パーティ」と読む人はいない。「パーティ」と書いてあっても、半分ぐらいの長音がついているようなイメージで読んでいると思う。少しのびているイメージなのではないか。「ケネディ」も発音では「ケネディー」と言っている。ティやディのあとには半分ぐらいの長音がついていると思っていて、実際に長音をつけてしまうと間延びした感じがする。小説のタイトルは「パーティー」と書いたのだが、入稿するときどうも間延びしたような感じがして長音をとり「パーティ」とした。「ティ」と書いたら1音、「ティー」と書いたら2音であるというそもそもの原則も、実際の発音ではゆれているのではないか。

荻野綱男委員：原案に賛成である。いろいろ考えるべきところがある。学術用語では3モーラ（拍）以上のものだけ長音を省くことにしている。「バーコード」の「バー」は2モーラなので「バ」にならない。一方「クロスバー」は3モーラ以上なので「クロスバ」でかまわないということになる。「super computer」を「スーパーコンピュータ」と書いているのを見たことがある。「スーパーマーケット」などで日常的に見慣れているので、「スーパーコンピュータ」には非常に違和感があった。これも「スーパー」は3モーラをこえるので、原則に従えば「スーパ」でかまわないことになる。学術用語で長音がない表記に見慣れていると長音のついている表記を見てニュアンスが違うと感じる。実際の発音は「コンピューター」が多いだろう。しかし、「コンピュータ」と書くことで、専門語的であるというニュアンスが加わる。意味が違ってくるといふ言い過ぎだが、そういう感覚がある。そのため書く場合には「タ」と書きたいという人が出てくるのだろう。「パーティ」「コメディ」なども同様のことが言える。ただ、長音なしで書いている人も発音ではのばしている。表記と発音がずれるとなると、NHKの「表音一致」の考え方と違ってしまふ。一致させるべきだという考え方からいえば、長音をつけざるをえないし、

それをつけた形で読むというのがNHKとしては妥当だろう。語末の長音は半分ぐらいのばすという立場の人もいるかもしれないが、日本語としては長いか短いかわからない。厳密に2モーラ分あるということではないだろうが、耳にした限りでは長い。

議題3 ロシアの酒「vodka」のカタカナ表記

現在、NHKおよび新聞協会ではロシアの酒「vodka」のカタカナ表記を「ウオツカ」にしている。しかし、日本語としては「ウオッカ」「ウォッカ」の形で定着しており、「ウオツカ」では違和感があるという声が多い。この語の発音と表記について用語委員の意見を聞く。

ロシア語の原音をどうカタカナ表記するかで混乱があった。vodkaのカタカナ表記には下記に記した表記が見られたようである。

ウオツカ、ウオトカ、ウオッカ、ウォツカ、ウォトカ、ウォッカ、ウォーツカ、ウォートカ、ヴォトカ、ヴォッカ、ヴォツカ、ヴォッカ（楳垣実（1963））

「ウオッカ」の発音・表記が一般的になった理由を、石野博史（1983）は「「ウオッカ」「カムチャッカ」は「いまだかつて」を「いまだかつて」と言い、「3年をへ（経）て」を「3年をえて」と言うのと同類の誤用である。つまり、日本語表記の誤読に基づくものだが、昔は促音であることを示すために「つ」を小さく書くということをしなかったから、このような誤りが起こりやすかった。」と説明している。ロシア語の実際の発音からは「ウオトカ」のほうが違和感がないとの考え方もある。

（資料）

●過去の調査結果（石野博史（1974））

「外来語と聴視者」調査（1973年9月～10月）

表記「ウオツカ」10%、「ウオッカ」86%

発音「ウオツカ」14%、「ウオッカ」81%

（テレビの画面に書き表すとしたら→表記）

アナウンサーが発音するとしたら→発音）

●製品名

サントリー →ウオツカ、アサヒ →ウオッカ

キリン、サッポロ、宝酒造 →ウオッカ

（議論）

荻野綱男委員：誤読からのスタートであることは確

かだが、すでに「ウオッカ」または「ウオッカ」の発音が普通になってしまった。ことばの問題は多勢は無勢である。「ウオッカ」が多数であるならば「ツ」でいいのではないかと思う。

清水義範委員：「ウオッカ」のほうが原音に近いということをここで初めて知った。「vodka」はこれだけみんなが「ウオッカ」と言っているものを「ウオツカ」にこだわるのも無理だろう。そろそろ「ウオッカ」でいいのではないか。こういう問題にそろそろというのも変だが、みんなが言っているのと、そろそろという気になってくる。崩さざるをえないということだろうか。

井上史雄委員：結論に賛成である。誤読であることは確かである。戦前に「ツ」「ヤ」「ユ」「ヨ」を小さく書かなかったために出てきた誤読である。1973年の調査でこれだけの使用率であり、現代では「ウオッカ」で問題ないと思う。

野村雅昭委員：この問題については「ウオツカ」とせざるをえないということで賛成する。

天野祐吉委員：「ウオツカ」というとキザな感じがする。通ぶっている感じ。今はみんな「ウオツカ」と言っているし、「ウオッカ」でいいと思う。しかし、「ウオツカ」も間違いではない。「ウオツカ」の表記も入れておいてはどうだろうか。「ウオツカ」が間違いというのも変な話だ。

井上由美子委員：「ウオッカ」の表記も気になるが、一気に「オ」と「ツ」を小さくするわけにはいかないだろう。現状を考えると「ウオツカ」とせざるをえないと思う。

山下洋子（やました ようこ）

注：

- 1) 第1321回放送用語委員会（平成21年7月3日）決定。「ブロードウェー」→「ブロードウェイ」。
- 2) 『NHKアクセント辞典』には掲載なし。『NHKことばのハンドブック』掲載。
- 3) 「新しい表記案」は議論の元になるように「案」として出したものである。この用語委員会の議論をもって「用語の決定」とするものではない。
- 4) 「音声認識調査」
調査日時：平成18（2006）年4月7日～16日。
調査対象：全国20歳以上の男女282人（47都道府県×6人）
調査法：CD聞き取り

質問：①聞いたことがある発音 ②自分で発音する場合の発音を選ぶ。回答用紙には、文字表記はなく、音声のみ。文章ではなく、単語のみを発話した。A. ウエーの発音 B. ウェーの発音 C. ウエイの発音 D. ウェイの発音の順番で発話。[wei] 関連の語以外では、「エイ・ケイ・セイ」関連の外来語と「wi/we/wo」関連の外来語・和語・漢語45語の発音調査も行った。

- 5) 日本工業規格（JIS）。工業標準化法による、鉱工業品の種類・形状・寸法・構造などに関する規格。日本工業標準調査会が規格制定を行い、経済産業省が認定する。規格名称として「コンピュータ」などの表記が見られる。日本工業標準調査会のウェブページでJIS規格について検索することができる。
<http://www.jisc.go.jp/app/JPS/JPSO0020.html>
参照

引用文献：

- ・石野博史（1974）「外来語の表記と発音－識者アンケート結果報告（2）」『放送研究と調査』247
- ・石野博史（1983）『現代外来語考』（大修館）
- ・楳垣 実（1963）『日本外来語の研究』（研究社）

第1360回放送用語委員会（東京）

【開催日】平成24年9月28日（金）

【出席者】天野祐吉氏、井上史雄氏、井上由美子氏、荻野綱男氏、清水義範氏、野村雅昭氏、森本和憲 NHK放送文化研究所長 ほか

訂正

『放送研究と調査』2012年9月号掲載の「放送用語委員会報告（東京）外来語の発音・表記について～[wi][we][wo]と二重母音[ei]～」の井上史雄委員の発言部分を事務局で誤って記述した部分がありました。おわびして訂正いたします。

p.83 左段 36 行目以降

誤 井上史雄委員：「エイ」「オウ」について話し合っている理由を考えてみる。「毛糸」などの漢語では「けいと」というひらがな表記であっても「ケート」と発音する。

正 井上史雄委員：「エイ」「オウ」について話し合っている理由を考えてみる。ひらがな表記の「けいと～」を「毛糸」では「ケート」と発音し、「系統」などの漢語では「ケートー」と発音する。